

運動学実習 (旧カリ用)

[実習] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》 小島 悟 skojima@hoku-iryo-u.ac.jp 中村宅雄 谷口翔平 坂上哲可

【概要】

本実習では、「運動学I」および「運動学」で身につけた知識をもとに、力学原理に基づく運動の記述と解釈、姿勢保持の仕組み、歩行動作の仕組み、運動技能を獲得するうえでの運動学習の仕組み、を演習を通して理解を深める。また、体表からの視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。

【学修目標】

<一般目標>

リハビリテーションの対象となる動作障害のメカニズムならびに動作障害に対する治療的アプローチの理論的背景を身に付けることを目的として、力学の基本原則に基づく運動の記述と解釈、日常生活動作の基礎となる姿勢保持および歩行動作の仕組み、ならびに運動技能獲得に関わる運動学習の理論的仕組みを、演習を通して体系的に学び、正常運動・動作の成り立ちとその獲得過程を理解する。また、体表からの視診・触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。

<行動目標>

1. 生体力学におけるキネマティクスとキネティクスの基本概念を説明できる。
2. 姿勢アライメントと、姿勢制御の仕組みを説明できる。
3. 正常歩行における基本特性を説明できる。
4. 運動学習の基本概念を説明できる。
5. 体表から各関節の構成体を触診し、その構造を確認できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	生体力学	力学的視点で運動・動作をとらえるために必要な力学の基礎知識を学ぶ。	谷口翔平
5) 8	姿勢	姿勢アライメントと姿勢保持の仕組みを学ぶ。	小島悟
9) 12	歩行	正常歩行における運動学的特性、運動力学的特性、運動生理学的特性を学ぶ。	小島悟
13) 15	運動学習	運動学習の基本概念、運動学習の成果を左右する要因、運動学習の成果を測定する方法を学ぶ。	谷口翔平
16) 23	体表解剖	各関節を構成する組織の触診 運動学演習とは別途開講	中村宅雄、谷口翔平、小島悟、坂上哲可

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

授業への取り組み（課題、小テスト）30%、定期試験（筆記試験）70%
定期試験実施後、問い合わせがあった際には模範解答を開示する。

【教科書】

小島悟 責任編集 「運動学」第2版 中山書店 2024年

【参考書】

Donald A. Neumann 著 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」 医歯薬出版 2018年

(2026年度・リハビリテーション科学部)

Peggy A. Houglum 著 「ブルンストローム臨床運動学 原著第6版」 医歯薬出版 2013年
Jacquelin Perry 著 「ペリー 歩行分析 原著第2版 正常歩行と異常歩行」 医歯薬出版 2012年
Richard A. Schmidt 著 「運動学習とパフォーマンス 理論から実践へ」大修館書店 1994年

【備考】

この授業は2025年度以降入学対象の「運動学演習」と同時開講する。

【学修の準備】

次回の学習項目について教科書の該当ページを読み、予習しておくこと(80分)。

毎回の授業後には授業時に配布された資料や教科書をもとに復習し、理解を深めること(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP6) 社会の変化や科学技術の進歩に対応できるよう、常に専門領域の検証と、積極的な自己研鑽および理学療法科学の開発を
実践できる能力を身につけている。

【実務経験】

小島悟(理学療法士)、中村宅雄(理学療法士)、谷口翔平(理学療法士) 坂上哲可(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士での実務経験を活かし、臨床場面において遭遇する身体運動・動作の異常のメカニズムおよび動作障害に対する治療
的アプローチの理論的背景を理解するための基礎的知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している